

十日町地域 稲作速報～土づくり～（9/30 発行）

十日町農業普及指導センター・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会

- 異常気象に負けないイネづくりに向け、10 月中に稲わらの秋すき込みを行い、継続的な土づくりを進めましょう。
- 水持ちの悪いほ場は、秋代かきを実施して水持ちを改善しましょう。

1 土づくり

異常気象に強いイネづくりにには、継続的な土づくりが重要です。有機物を施用したほ場では、保水力や窒素供給量が向上します。

（1）稲わらの秋すき込み

- ・秋にすき込むことで、堆肥施用と同等の土づくり効果が期待でき（図1）、春すき込みに比べ、根腐れの原因となるワキ（硫化水素）などの発生が軽減されます。
- ・稲わらの分解を促進するため、地温が高い10 月中に行い、深さは5～10 cmの浅うちとしましょう。

（2）もみ殻の活用

- ・水田から得られるもみ殻（約 120 kg/10a）をほ場に還元すると、ケイカル 80～100kg/10a と同等の効果が期待でき、土壌物理性も改善します。
- ・ただし、もみ殻の多量施用（250kg/10a 以上）は、窒素飢餓や土壌の強還元により初期生育が遅れる恐れがあるので注意しましょう。また、稲こうじ病等が多発したほ場のもみ殻散布は控えましょう。

（3）土壌診断

- ・土壌診断により、土壌中の養分の過不足を把握し、適切な土づくりを行いましょう。

2 漏水対策

夏期に大きな亀裂が入ったほ場は、漏水によって来年の栽培に悪影響が生じる恐れがあります。稲刈り後に漏水箇所を点検し、年内に対策しましょう。

（1）畦畔際の漏水対策

- ・丁寧な畔塗りにより畦畔を補修しましょう。畔塗리することで堅く締まった丈夫な畔ができます。
- ・畦畔際を中心に大きな亀裂が生じた場合は、畦畔際をトラクターで何回か走り、タイヤで鎮圧しましょう。

（2）本田の漏水対策

- ・秋耕を行った後、排水口・暗渠栓を閉じて雨水や融雪水を保持するよう努めましょう。
- ・雨水等で可能な限り湛水して、丁寧な代かき（秋代かき）を2回以上行いましょう。

堆肥施用と同等の収量を確保！

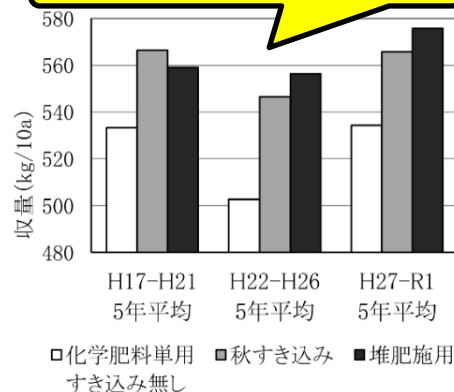


図1 有機物長期連用によるコシヒカリ収量推移（H17 年～R元年、農総研基盤）

漏水田（水が抜ける田）だと…

- ・水をたくさん使うため、用水不足を招く（水不足地域では影響大）。
- ・水がたまりにくいいため、田植え後に地温が上がらず、初期生育が遅れる。
- ・肥料成分がほ場から流出しやすい。
- ・除草剤の処理層が保てず、雑草が多発生しやすい。

十日町農業普及指導センター（作物担当）

TEL 025-757-5516・6061

HP http://www.pref.niigata.lg.jp/tokamachi_nogyo/suito.html



←LINE 水稻情報は
こちらから